



令和4年8月2日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（7月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和4年7月分）

1. 在福岡アメリカ領事館政治・経済領事のカサリン・ラファエロ氏が基礎教育科目「現代アメリカ入門」で講義
2. 附属中の生徒23名がトウモロコシの収穫体験
3. 毎月対面式で実施中：ミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」
4. 中学生が宮崎大学で地域の魅力を紹介 — 延岡市立三川内中学校 —
5. まちなかカレッジ『大粒のブルーベリーを育てよう！』を開催
6. 工学部環境ロボティクス学科学生43人が宮崎日機装工場を見学
7. 公開講座「2022年度世界の野球事情（前期）」全9講座が終了
8. 地元プロサッカーチーム「テゲバジャーロ宮崎」の選手によるサイン会を実施
9. 宮崎国際大学・宮崎学園短期大学・宮崎大学による職員意見交換会を実施
10. 商工中金宮崎中金会より地域資源創成学部に対してご寄附をいただきました
11. 宮崎県立本庄高等学校1年生が宮崎大学を訪問
12. 鈴鹿8耐に参戦する和田留佳さんが宮崎大学長を表敬訪問
13. 第1回医農工連携プロジェクトものづくりフェスタ2022を開催
14. 小学生向け夏休み特別企画「宿題バスターズ」を実施
15. 地元プロサッカーチームのスタジアムDJは宮崎大学生！

1. 在福岡アメリカ領事館政治・経済領事のカサリン・ラファエロ氏が基礎教育科目「現代アメリカ入門」で講義

令和4年6月22日(水)、基礎教育科目『現代アメリカ入門』の一環で、在福岡アメリカ領事館政治・経済領事のカサリン・ラファエロ氏が宮崎大学を訪問し、学生約70人に通訳を交えながら英語で講義しました。カサリン政治・経済領事は、国際社会が取り組むべき喫緊の課題である「気候変動」に関する概況を説明しつつ、アメリカや日本の取り組みについても紹介しました。また、国際社会が協力して気候変動対策に取り組んで行く重要性にも言及しました。最後に、学生から外交官の仕事内容等について、英語・日本語を交えて様々な質疑応答が行われました。講義終了後も、数名の学生が教室に残って、英語と日本語でカサリン政治・経済領事に質問しました。カサリン政治・経済領事は、丁寧に一つ一つの質問に回答してくださり、学生は国際社会への興味や理解を深めていました。



2. 附属中の生徒23名がトムモロコシの収穫体験

令和4年6月23日(木)、農学部附属木花フィールド(農場)にて附属中学校特別支援学級の生徒23名とその保護者がトムモロコシの収穫を体験しました。このプログラムは、同校が校外学習の授業の一環として例年取り組んでいるもので、収穫体験を通し、社会生活・就労につなぐために自発的な学び、社会参加の意欲を高め、社会資源活用能力を育てることを目的として



しています。最初に、農学部フィールドセンター技術職員の野村憲司氏より、「ヒゲはこげ茶のものを選び、いちばん上に付いている実だけを収穫しましょう」といった収穫時の注意点が説明され、その後、各自収穫を体験していました。最初はどれを収穫しようか悩んでいた生徒たちも次第に慣れた手つきで次々とトムモロコシを収穫し、体験を楽しんでいる様子で、収穫を終えた生徒からは、「みんなと一緒に収穫ができて楽しかったです！収穫したトムモロコシは焼きトムモロコシにして食べたいです」といった感想が聞かれました。

3. 毎月対面式で実施中：ミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」

令和4年5月27日（火）から、対面形式とオンライン形式を交えたハイブリッド形式でミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」を10回シリーズで実施しています。本講座は、少子高齢化や事業承継問題など、地域が抱える課題が多様化するとともに、地域において分野を超えたノウハウの共有・連携などの重要性が高まっていることを背景に、神奈川県理事（いのち・未来戦略担当）



を務める宮崎県都城市出身の脇雅昭氏が講師・コーディネーターをつとめ、宮崎のさらなる活性化に向けて議論を深めていくことを目的としており、宮崎県や宮崎県工業会、宮崎県商工会議所連合会の後援を受けて実施するもので、学生のみならず一般の方も無料で受講することができます。6月24日（金）に実施した第2回目は、「スポーツと地域編」と題して、本講座のコーディネーターでもある脇氏のほかに（公財）日本プロサッカーリーグ社会連携部長の鈴木順氏と宮崎県のプロサッカーチーム「テゲバジャーロ宮崎」のホームタウン担当の藤原優希氏を特別ゲストとして迎え、スポーツが持つ可能性についてお話しいただきました。

4. 中学生が宮崎大学で地域の魅力を紹介 — 延岡市立三川内中学校 —

令和4年6月30日（木）、延岡市立三川内中学校（宮崎県）から32名（生徒16名、教職員6名、家庭教育学級としての保護者10名）が宮崎大学を訪問し、地域デザイン棟において、生徒が独自に調べた地域の「食」「景観」「清流荘」「ホタル」「三川内の川」「神楽」について生徒が調べた内容を大学生や大学職員にプレゼンテーションしました。



今回の訪問は、同校の「地域交流学习」の授業の一環で、生徒自身が地域の情報を発信することで、自分自身の将来について視野を広げ、学習意欲の向上や生活全般の向上につながるるとともに、実際に大学を訪問してその雰囲気を感じさせたキャリア教育も兼ねています。生徒の皆さんは、会場を訪れた大学生や教職員に、自分たちの住む地域の魅力について説明するとともに、少しでも多くの人にその魅力を届けようと、会場の外にも足を運んで呼び込みをしていました。また、昼食は学生食堂を初体験。さらに、図書館を見学したり、大学内を散策したり、とキャンパスライフも満喫していました。

5. まちなかカレッジ『大粒のブルーベリーを育てよう！』を開催

令和4年7月2日（土）、宮崎大学公開講座「まちなかカレッジ 2022（前期）『大粒のブルーベリーを育てよう！』」を木花キャンパスにある地域デザイン棟で実施し、19名が受講しました。本講座は、2017年度から開始した一般向けの講座で、農学部長の國武久登教授が講師を務め、「食と健康」をキーワードに、果実や植物に隠された健康機能性について説明



するとともに、「育て方・食べ方」についても関して詳しく説明します。今回の講座では、ブルーベリーをはじめ様々な果樹の栽培方法やブルーベリーの育て方（土作り、剪定の仕方、鉢の置き方、農薬の使い方など）について実演を交えて講義を行った後、実際にブルーベリーの苗木を使用し、育て方をわかりやすく丁寧に説明を行いました。受講者にはブルーベリーの苗木が提供され、実際に栽培に挑戦していただくこととしています。

6. 工学部環境ロボティクス学科学生43人が宮崎日機装工場を見学

令和4年7月6日（水）、工学部3年生43人が、宮崎日機装株式会社（宮崎市高岡町、長門祥一代表取締役社長）の工場を訪問見学しました。宮崎日機装株式会社は、創業60年以上の歴史を持ち独自の製品と技術で世界に貢献し続ける日機装株式会社の100%子会社として、宮崎で本格的な物づくりを展開し、新たな歴史を



作るために設立された新しい会社です。特に、飛行機が着陸する際のエンジンの逆噴射時に重要な役割を持つカスケードについては、世界を飛び交う民間航空機の約9割のシェアを持っています。さらに、サッカーコート17面分の事業所敷地の中に新たに血液回路工場建設を検討中で、血液透析装置をはじめとする医療機器分野でも大きな成長が期待されています。今回の訪問見学は、本学の強みである分野を超えた医工連携の知識・技術を学ぶことを目的とした工学部専門科目「人工臓器学・医療機器概論」の一環で実施されたものです。新型コロナウイルス感染症の影響で学外での活動を控えてきましたが、ひさしぶりの学外での活動に、学生も興味を持ち、時間が無くなるまで質問をしていて、参加した学生にとって、とても有意義な時間となりました。

7. 公開講座「2022年度世界の野球事情（前期）」全9講座が終了

令和4年7月6日（水）、宮崎大学が JICA 国際協力機構などをはじめとする海外におけるスポーツの普及活動を進める機関と連携しながら、世界各国で野球の指導経験がある日本人を講師に招き、Zoom を利用したオンライン形式で、日本とは全く異なる世界各地の野球事情を国内外に発信する公開講座「世界の野球事情（前期）」全9講座が終了しました。本講座は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて海外渡航はもちろん、外出制限などが行われた社会情勢などを背景に、自宅にいながら気楽に世界の野球事情に触れてもらおうと、令和3年度から開始したものです。講座では各講師がその国ならではの苦労話を交えながら、各国の野球事情とともに野球というスポーツの価値を幅広く紹介していただき、国内外から毎回30名から50名程度の方に視聴いただきました。



どの講座も、野球の競技力向上や普及だけではなく、野球を通じた人材育成や人的交流の重要性が共通の話題として取り上げられ、スポーツが持つ様々な可能性を再確認できる内容となりました。最終回のスリランカ編では、日本とスリランカの国交樹立50周年の節目の年にあたる2002年に派遣された植田一久氏（日本・スリランカ野球友好協会代表理事）が、当時のスリランカの野球事情を紹介するとともに、20年間かけて苦難を乗り越え構築してきた人と人との繋がりの大切さを語り、野球を通じた交流が様々な場面で花開いている事例が紹介されました。

8. 地元プロサッカーチーム「テゲバジャーロ宮崎」の選手によるサイン会を実施

令和4年7月7日、宮崎県初のプロサッカーチームであるテゲバジャーロ宮崎の選手2人（江口 稜馬選手、新保 海鈴選手）とスタッフ3名が宮崎大学を訪れ、学生向けにサイン会を実施しました。宮崎大学では、地域資源創成学部の企業マネジメントコースの丹生晃隆研究室（技術経営・ベンチャー）が中心となって、



2019年度より「宮大×テゲバ交流イベント」を実施するなど、サッカーという切口からの地域振興に取り組んでいます。また、令和4年度からは、スタジアムDJをいちたにななさん（地域資源創成学部4年）が務めるほか、医学部整形外科も医療面でのバックアップをしています。今回のサイン会は、宮崎大学生協が主催したもので、生協の書籍

購買店にて、ホームゲームの前売りチケットを販売していることの広報も行われ、「友達が大ファンなのでサインをもらいに来ました」という学生もいて、選手との記念写真の撮影をしたり、一緒にパスワークをしたりと、コミュニケーションを楽しんだ様子で、選手からは「ぜひ、試合観戦に来てください」とメッセージが送られました。

9. 宮崎国際大学・宮崎学園短期大学・宮崎大学による職員意見交換会を実施

令和4年7月14日(木)、宮崎大学木花キャンパスにおいて、宮崎国際大学(学校法人宮崎学園)・宮崎学園短期大学(学校法人宮崎学園)・宮崎大学の職員による意見交換会を実施し、3高等教育機関から合計30名が出席しました。本企画は、村上昇宮崎国際大学長(宮崎大学名誉教授、元宮崎大学農学部長)の発案に



より実現したもので、はじめに、香川玲子宮崎国際大学長補佐から、実施に当たって協力いただいた関係者に謝意が述べられました。今回は、各機関の概要が簡単に紹介された後、教務、総務、財務等の部署ごとに分かれて、それぞれが持つ強みや課題などについて共有・意見交換を行い、最後に宮崎大学木花キャンパスの見学をしていただきました。参加した宮崎国際大学職員の方からは、「このような場をもつことは初めてのことであり、今後も気軽に相談できるネットワークを維持していければ」との感想が寄せられ、とても有意義な時間となったようでした。

10. 商工中金宮崎中金会より地域資源創成学部に対してご寄附をいただきました

令和4年7月20日(水)に開催された商工中金宮崎中金会の創立50周年の記念式典において、地域資源創成学部の「国内インターンシップ」の取り組みに対して寄附目録を贈呈していただきました。県内企業・自治体等における約1ヶ月の長期実践型インターンシップを通じて、若者の人材育成や地域振興に貢献している点を評価していただきました。地域資源創成学部では、インターンシップをお受けいただく企業・自治体様を随時募集しております。



11. 宮崎県立本庄高等学校 1 年生が宮崎大学を訪問

令和 4 年 7 月 21 日（木）、宮崎県立本庄高等学校 1 年生 35 名が宮崎大学を訪問。広報担当者が宮崎大学紹介映像などを交えながら大学全体の説明を行ったのち、池田中也准教授が地域資源創成学部の紹介を行いました。



本学では、コロナ下においても感染対策を徹底した上で、県内外からの大学訪問を受け入れています。また、8 月 10 日（水）・11 日（木・祝）には、オープンキャンパスを実施します。沢山の皆様のお越しをお待ちしております。

12. 鈴鹿 8 耐に参戦する和田留佳さんが宮崎大学長を表敬訪問

令和 4 年 7 月 22 日（金）、「2022 FIM 世界耐久選手権 “コカ・コーラ” 鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 第 43 回大会」（鈴鹿 8 耐）（2022. 8/4-8/7 開催）に本学として初めての参戦が決まった和田留佳さん（工学部機械設計システム工学科 4 年）が鮫島浩宮崎大学長を表敬訪問しました。



表敬訪問には、鮫島学長のほか、新地辰朗理事（教育・学生担当）、鈴木祥広工学部長、山子剛准教授（和田さんの担任教員）、山里里美学生支援部長も同席。山里部長は鈴鹿 8 耐に何度も足を運んだ経験を持つことから、この大会に出場することの凄さについて和田さんに代わって詳しく説明していました。

和田さんは 5 歳からキッズレースに参加し、2015 年の鈴鹿 4 耐では 14 歳で優勝した経歴をもつ実力者です。今大会では唯一の現役国立大学生として参戦します。

和田さんから「大学生ライダーとしての誇りを持ち、チームの目標である入賞を目指します」と抱負が述べられ、鮫島学長からは「まずは和田さんの安全を祈ります。そして、多くの人の期待を浴びながら楽しんでください。良い報告を待っています」と激励がありました。

大会は、8 月 4 日より開催され、和田さんの健闘が期待されます。

13. 第1回医農工連携プロジェクトものづくりフェスタ 2022 を開催

令和4年7月23日（土）から、宮崎大学木花キャンパスにある創立330記念交流会館および地域デザイン棟において、第1回医農工連携ものづくりフェスタ 2022 を開催し、関係者を含め200名を超える方に来場いただきました。



本イベントは、東九州メディカルバレー構想に基づく宮崎県内の医療機器開発等を活性化させるため、宮崎大学学部間および大学関係者とのものづくり企業との出会いの場を提供することを主な目的としています。当日は、多くの医療関係者や農学部・工学部・医学部の研究者がポスター展示を行い、県内の医療機器開発企業様と出会い、交流することで新たな医療機器の研究開発がはじまることを目指します。

展示コーナーでは、旭化成メディカル株式会社様をはじめとする13社の企業様からの企画展示と宮崎大学の研究紹介のポスター展示唐を含めて25の展示がなされ、宮崎大学発ベンチャーのLOCOBOTなど複数の県内企業で体験イベントも実施しました。

14. 小学生向け夏休み特別企画「宿題バスターズ」を実施

令和4年7月25日（月）から7月27日（水）の3日間、小学生向けの宿題お手伝い企画である「宿題バスターズ 2022」を宮崎大学まちなかキャンパス（宮崎市若草通アーケード内）で実施しました。本企画は、小学生が早めに夏休みの課題を終わらせ、有意義な夏休みをすごしてもらうことを目的に2018年度から実施しており、参加者が自習をする中でつまずいた部分を、先生役を務める宮崎大学生や大学



職員が参加者の勉学を手助けするものです。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて2年連続して実施できませんでしたが、今年は3年ぶりに規模を縮小して実施することができました。参加した小学生からは「わからない問題があれば、先生に聞くことができるので助かります」との感想がある一方で、中学入試の過去問の難易度が高く、小学6年生に質問された先生がすぐに答えられない場合もありました。また、保護者からは「夏休みは長いので、色々と場所を変えて気分転換しながら宿題を進めてもらえるので助かります」との声が寄せられました。宮崎大学では、このような企画を通じて中心市街地の交流人口を増加させ、賑わいづくりに貢献していくこととしています。

15. 地元プロサッカーチームのスタジアムDJは宮崎大学生！

宮崎大学地域資源創成学部4年のいちたにななさんが、2022年4月から宮崎県初のプロサッカーチームであるテゲバジャーロ宮崎のスタジアムDJを務めています。いちたにさんは、高校時代から音楽活動を始め、シンガーソングライターとして全国各地でライブに出演する傍ら、ラジオのパーソナリティを務めていましたが、サッカーに関する基礎知識はほとんどなかったようです。託された大役を全うしようと、日々奮闘しています。



宮崎大学では、地域資源創成学部の企業マネジメントコースの丹生晃隆研究室（技術経営・ベンチャー）が中心となって、2019年度より「宮大×テゲバ交流イベント」を実施するなど、サッカーという切口からの地域振興に取り組んでいます。2022年7月15日には、同研究室の学生がスポンサー企業である宮崎日日新聞社を訪問し、スポンサー企業としての意義や効果を学習し、ファン層の拡大に向けた意見交換会を実施しました。

宮崎大学では、医学部整形外科も医療面でのバックアップもしていて、今後も様々な形で県内各地のスポーツチームを応援するとともに、スポーツ振興に貢献していきます。